

一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

- 1◎巻頭言
- 2◎第34回栃木大会案内
- 3◎研修委員会//認定委員会//学会誌作成委員会
- 4◎調査研究委員会//広報委員会//ガイダンス
カウンセラー関連情報/
- 5◎支部のキラリ
- 6◎【福岡市支部】一支部活動報告一
- 7◎中央研修会報告//災害被災者支援委員会報告
- 8◎会長コーナー//事務局より//編集後記

第67号

巻頭言

『現場主義！』

私は、研究者でも学者でもない、一介の駆け出しのスクールカウンセラーです。長くお世話になっているこの学会への恩返しと、次世代を担っていかねばならない方々への恩送りとして、この大役をお引き受けすることにいたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

私のテーマは、“現場主義”です。「変えられないのは他人と過去。変えられるのは自分と未来」とよくいわれます。でも、教育現場は、特に同調圧力の強い職場の一つです。なかなか自分を変えることには抵抗があります。それに伴い“前例踏襲”“旧態依然”“上意下達”の壁は、私の住む北海道でも感じることがあります。

「事件は会議室ではなく現場で起こっている」という、映画の名セリフではありませんが、そんな時こそ、目の前で起こっている「事実」だけを信じたことだと思いました。「やっていることの行動観察」から、そのわけを知ること、そうせざるを得なかった背景を知ること、それが現場主義なのかもしれません。それは、身近にいるものしかわかりえないことなのでしょう。

問題が発生したときや、行き詰まったときには、その対象となるものや事象を真剣に、謙虚に観察し



副会長 畠山 貴代志

続け、素直な眼で現象をじっと見つめ直すこと、そうすれば、その対象となるものや事象の叫び声やきしむ音が語りかけてくると、言われたことを思い出します。数値やグラフなどで提示したエビデンスというバイアスだけに振り回されるのではなく、あるがままの姿を謙虚に受け止めることの重要性を痛感しています。

現場を離れた机上で理論や理屈をこね回すよりも、問題を解くためのカギとなる現場の情報をシンプルに捉え直すこと、正解を出すのではなく、“エンパシー”をもって、人はただ聴いて、ただ感じて、認めてもらうことを必要としているのかもしれない。『自ら立ち上がり、自分の足で歩き始めていけるようなかわり』を意識しながら、新会長のもと、微“力ですが、精一杯、努めさせていただきます。

第34回研究大会（栃木大会）案内

2019 年末の新型コロナウイルスの登場から足掛け4年になりました。地球上のあらゆる地域、あらゆる分野で私たち人類は見えない敵との戦いに直面している真最中です。

この1月末、国内の感染者数は一日で7万人を超えるというすさまじさ。この第6波の中にさらされている私たち、とりわけ子ども達の感染が急増し、各種の園、学校閉鎖、学年・学級閉鎖が始まっています。ひたひたと身近に迫る感染拡大の中、私たちは子ども達の教育に関わる者としてこの難局にどう対峙できるか、日々毎日が試行錯誤の連続です。

昨年夏、1年の延期を余儀なくされた第33回全国大会（兵庫大会）は初のオンライン形式で開催されました。兵庫県支部実行委員会の皆様にはさぞかしご苦労があったことでしょう。「2次案内」発送直前の土壇場で当初の対面方式を急遽 Zoom によるオンラインに変えたその英断とその後の準備、段取りの手際の良さには心から敬意を表します。

兵庫大会の大会テーマは「気づき つながり 支え合う教育相談～様々な課題を乗り越え、多様な個性が輝くために～」でした。

私たち栃木県支部実行委員会ではパンデミックが吹き荒れる中討議を経て、兵庫大会を受け継ぐ形で次の大会テーマを掲げました。「災禍に向き合い、支え合い、つないできた学校教育相談活動を児童生徒の心の砦としてさらに充実させよう」（第1次案内掲載）

兵庫大会では4本の自主シンポジウムと18本の「研究事例実践」発表がオンライン上でありました。もうその時点でも新型コロナに関連する研究実践事例発表が4本ありました。各地で素早い取り組みが行われていることを実感しました。

今後「With コロナ」「新しい生活様式」は公衆衛生分野における市民生活の基本理念として根付くことになるでしょう。教育現場でも同じことが言えます。

今夏（8月6日～7日、オンライン・オンデマンド方式）の第34回全国大会（栃木大会）では兵庫大会以降の新たな取り組みが示されるに違いありません。今後の私たちの実践指標になるような取り組みを期待します。

さて、「さまざまな課題を乗り越え、多様な個性が輝くために」は兵庫大会のサブテーマでした。この

テーマにぴったりな大きな渦が今まさに地球規模で沸き起こっています。それは「SDGs」のうねりです。わずかな期間にこの単語は子ども達にも届いてきました。そしてこの命を育んでいる地球という天体に今起きているたくさんの課題に子ども達は気づき始めました。

「持続可能でより良い世界」を担っていく目の前の子ども達に私たちができること、伝えておきたいこと、子ども達の純粋で透明な気づき、思いから紡ぎ出した実践研究が生まれています。ぜひ皆様も地域学校で携わっている実践を披露してください。閉塞的な空気を吹き飛ばしてくれる取り組みは、あしたからの私たちの実践活動の励みになります。

慣れないオンライン大会の準備は緒についたばかりですが各方面と連携を取りながら6月発送予定の第3次案内で申し込みを募ります。多くのご参加をお待ちしています。

「記念講演・オンデマンド配信」のご案内
講師・井上 広法（いのうえ こうぼう）氏
浄土宗光琳寺住職（宇都宮市）1979年生
佛教大学文学部仏教学科卒
東京学芸大学教育学部人間学類カウンセリング専攻卒
仏教と科学の両面から人間の心のメカニズムについて探求
2012年人生相談Webサイト「hasunoha」立ち上げ
2014年バラエティ番組「びっちゃんけ寺」立ち上げ
著書「心理学を学んだお坊さんの幸せに満たされる練習」（永岡書店）など。

（文責：栃木大会実行委員長 柴 一彌）



★研修委員会

研修委員会では、第32回中央研修会を終え、現在第23回夏季ワークショップの準備をしております。この夏に開催される第34回総会・研究大会（栃木大会）がZoomによるオンライン実施であることから、夏季ワークショップもオンラインでの研修となります。

第23回夏季ワークショップは、総会・研究大会に先立って2022年8月6日（土）に開催されます。内容につきましては、コース別研修を6コース設定いたします。午前の部（9:00～12:00）と午後の部（13:00～16:00）にそれぞれ3コースずつ設定し、その中から皆様に選んでいただくという形式になります。

コース別研修の詳細につきましては、第34回総会・研究大会（栃木大会）の2次案内、3次案内でお知らせすることになります。先の話でなかなか難しいことかもしれませんが、今からご予約をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

また2023年1月に予定しております第33回中央研修会につきましても、実施方法、実施内容について検討を始めているところです。

1月に実施しました第32回中央研修会では、オンラインであることから起こる課題が明確になりましたので、その改善に向けて検討を進めているところです。今後、実施方法、内容について充実した研修にすべく取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

（文責：研修委員長 向江 幸洋）

★認定委員会

○認定審査状況について

今年度の学校カウンセラー資格認定申請者は17名、学校カウンセラースーパーバイザー資格認定申請者は3名でした。当初は東京会場にて対面での面接審査を予定し準備を進めていましたが、オミクロン株の出現で感染拡大が懸念されたため急遽Web面接に切り替えて1月22日（土）に実施しました。年末押し迫っての変更で、申請者の皆様には予定の変更などご迷惑をおかけしました。改めてお詫言申し上げますとともに、ご協力に感謝いたします。

認定審査は、提出された申請書及び添付資料を確

認する書類審査と、面接審査を実施して行います。面接審査では、申請動機や申請書類記入内容の確認、相談活動や研修・研究の実践の様子などを直接お尋ねして専門性や意欲、お人柄などを総合的に判断します。

また、2年ぶりに実施しました学校カウンセラー資格更新申請者は75名でした。こちらは書類審査のみを行います。実践・研究・研修の3領域各最低5ポイント以上、合計30ポイント以上が更新の条件です。添付書類を基に必要ポイント数を確認して判断します。

○学校カウンセラー資格有効期限1年間延長に関する証明について

昨年度、更新認定を実施できなかった措置として全ての学校カウンセラー資格有効期限を1年間延長しました。しかし、証明書（カード）の再発行は行っていませんので、お仕事などの関係で証明が必要な場合は、返信用封筒を同封の上、下記へご連絡をお願いします。証明書を発行します。

〒320-0857

栃木県宇都宮市鶴田2丁目1-8

ムギショウビル2階

栃木県カウンセリングセンター内

日本学校教育相談学会認定委員会

（文責：認定委員長 築頼のり子）

★学会誌作成委員会

現在学会誌第32号の編集を進めております。すでにご承知のように、今回から論文審査方法が変更になっています。査読委員からの助言により、論文をブラッシュアップできるようお手伝いができればと思っています。

本年度の投稿論文は12本でした。第32号は令和4年6月発行予定です。多くの論文が掲載されることを願っております。

さて、本年6月以降は学会誌第33号への投稿論文の募集が始まります。多くの会員の方からのご投稿をお待ちしております。

「投稿規定・審査に関するガイドライン」「論文審査の流れ」「投稿前チェックシート」「論文作成の手引き」を学会誌に掲載しています。学会誌第31

号には、新たに「実践論文、実践報告執筆の留意点—学校現場のみなさん方へ—」を掲載しました。学校現場にお勤めの皆様は多くの実践をされていると思います。その実践を「実践論文」や「実践報告」としてまとめる際に参考になると思います。ぜひご覧くださり、論文としておまとめいただければ幸いです。

最後に論文公開についてのお知らせです。学会誌第33号以降に掲載される論文のうち、事例を扱っていないもの、そして執筆者の了解が得られたものについては、学会ホームページから閲覧できるようにするとともに、CiNii等において検索可能とする予定です。学会誌に掲載決定後に、執筆者に個別にご案内しますのでよろしくお願いたします。

(文責：学会誌作成委員長 藤井 和郎)

★調査研究委員会

調査研究委員会では、「学校における教育相談のあり方」について、①コーディネーターの業務と学校の体制づくり、②教員に求められる教育相談活動におけるスキルや対応という2点に特に着目し、今年度より調査研究を進めていくことになりました。文部科学省(2017)の「児童生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～(報告)」において、教育相談コーディネーターの配置・指名、教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制の構築の必要性が述べられています。教育相談コーディネーターの配置状況や役割などの現状を調査するとともに、教員によるこれまでの教育相談活動の実践事例についても調査を行い、これからの教育相談体制づくりについて考えていきたいと思っています。

調査研究を進めていく委員は、藤坂雄一(副委員長、宮城県支部)、小笠原淳(岐阜県支部)、小林秀之(群馬県支部)、住谷孝明(群馬県支部)、高田清美(岡山県支部)、松井美雪(群馬県支部)、和久田耕平(大阪府支部)です。現在はオンラインで会議を行いながら、調査の準備を始めており、今後、アンケートやインタビューによる調査も行いながら研究を進めていく予定です。調査研究の結果については、全国大会や学会誌等で会員の皆さまにご報告していきたいと考えています。

(文責：調査研究委員長 金子 恵美子)

★広報委員会

会報の紙面改訂に向けて本会報も今回で67号を数えることとなります。毎回編集時に、創刊号からこれまで編集に携わってこられた諸先輩方のご苦勞を改めて実感しています。年3回の発行では情報内容や情報量にも限界があり、また、紙面のマンネリ化を避け、学会員に興味関心をもって読んでいただくための工夫も—苦勞です。毎回、投稿していただいた原稿を編集、校正に至るまで、各広報委員にとってはストレスを感じる日々もあります。

そんな中、昨年11月末に広報委員会を開催し、会報等の今後の方針について話し合いました。すると偶然にも昨年12月末に開催された会長副会長会で、各専門委員会の更なる活性化について話し合われたらしく、広報委員会にも要望をいただきました。内容の一つは会報紙面の更なる工夫についてでした。

会報の紙面について、直近では会報63号より従前のシリーズ「先輩教員に聞く」から「支部のキラリコーナー」に変更しました。しかし、今回の要望を受け、今後は一部改訂ではなくもう少し大幅な改訂があっても良いのではないかと考えています。一部、会長副会長会からいただいている案もございますが、この機会に是非、学会員の先生方からもご意見を頂戴したく思います。各支部理事長様を通じてでも結構ですし、直接広報委員会にお知らせいただいても結構です。ご忌憚の無いご意見をお聞かせいただきたく、よろしくお願いたします。

(文責：広報委員長 山本 健治)

★ガイダンスカウンセラー関連情報

1. ガイダンスカウンセラーの活用について

会報第17号の5～7ページで紹介された支援事業委員会の活動について、まだまだ周知が進んでいませんが、北海道支部のガイダンスカウンセラーが当協議会の支援を受けて公立高校への講師として派遣されました。今後も公的な予算の手当はないが、当推進協の支援のもとに小・中・高の構成的グループエンカウンター、校内研修会等を実施したい場合は、是非当推進協石隈理事長宛の依頼文書(校長名)で要望して、各支部で推薦されたガイダンスカウンセラーを講師として派遣していただきたい。(ちなみに、支援内容は1時間あたり3,000円、交通費として2,000円を補助します。)

2. ガイダンスカウンセラーの資格更新

ガイダンスカウンセラーの資格は1度取得しますと10年間有効です。

2021年度認定会員の資格更新申請受付を、12月4日(土)に締め切りました。申請書は、認定委員会の申請確認・認定審査へと進めて、2022年3月に認定証発送を予定しています。本年度は、2012年度認定会員(会員番号が12~から始まる方)の皆様へ資格更新申請の連絡が届く予定です。ガイダンスカウンセラーの上級資格として「ガイダンスカウンセラー・スーパーバイザー」を新設しました。

詳しくは推進協議会のHP(<http://jsca.guide/>)をご覧ください。

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング
推進協議会理事 学校カウンセラー・
ガイダンスカウンセラー 加勇田修士)



☆支部のキラリ!☆

「不登校の予防と登校を
支えるための「好み」
を用いた美術の実践」

新潟県支部

藤田 磨弥



通常学校だけでなく知的障害特別支援学校でも不登校の課題は従来から、現在でも、教育現場において解決すべき課題の一つである(園山・趙・倉光、2017)。

学校生活では、教師や仲間の交流、学習を通じた対話機会が多くある。こうした学習体験が、卒後の就労や自立生活に必要な様々なスキルや耐性力、回復力につながると考えられる。不登校が続き学習空白の状態になると、そうした学校生活の成功、失敗経験が不足する。不登校の要因、また登校の阻害要因には、苦手な生徒や教師がいるから、勉強がわからないから、家での活動(ゲームやネット等)にはまって居心地も良いから、昼夜逆転し起床できないから等、生徒によって異なり複数あることが考

えられる。「なぜ不登校が生じ維持しているのか」の機能的な観点から捉えると、不安、嫌悪、逃避・回避等、いろいろ推定されるが、それらを支える阻害要因をアセスメントによって把握して除去したり、一方で登校行動を支える要因を整備したりすることで登校行動が高まると考えられる。登校行動を支えるのは、学校での授業や部活等の活動参加、苦手な活動にも頑張って参加したことがもたらす成功や達成経験、心許せる友人との交流等が必要と考えられる。「登校できる」は目標ではなく、学校生活の充実による結果と考えられる。よく「教師は授業で勝負する」といわれるが、授業をはじめとする学校の活動を充実させていくことが不登校の予防につながるであろう。

私は主に高等部の美術科の授業を担当しているが、普通に登校している生徒も不登校の生徒にとっても「楽しい」と感じられるような美術の授業をしようと心掛けた。その結果、高等部2年の男子A(以下A)は30日を超える欠席日数であったが、今年度、美術の授業はすべて参加することができた。Aを含む多くの生徒から授業の事後アンケートで肯定的な評価を得ることができた。全体の生徒への「予防」とAに対して「登校を支える」視点で「好み」を用いた授業を行った。具体的な実践を以下に紹介する。

美術の授業で、Aを含むどの生徒も楽しいと感じながら主体的に制作するための工夫として「好み」を用いた。コラージュ制作のモチーフを決定する際に「好み」のアセスメントを行った。事前アンケートで生徒に「好み」を聞きとった。「好み」という言葉と、生徒になじみやすい「推し」という言葉を用いてアンケートを実施した。それぞれの生徒のアンケートには、好きなアーティストや俳優、アニメ、食べ物、宇宙、動物、車、バイク等の自分の「推し」が記入されていた。Aのアンケートには、車好きであるため、映画「ワイルドスピード」に出てくる車の名前や俳優の名前が記入されていた。アンケートをもとに材料となる写真、イラスト等の材料の用意を行った。パワーポイントで説明し、制作手順表で作り方を確認してから、コラージュ制作を行った。コラージュ制作は、画用紙に材料を切り貼りするだけで簡単に作るすることができた。制作手順表を見ながら自分で制作を進め、分からないときやできないときのみ教師に質問し、援助を要請するように促した。

Aは、映画「ワイルドスピード」に出てくる車の写真や俳優の写真を画面いっぱい切り貼りした。平面作品が完成した後、発展させてコラージュを生かしたタンブラーの制作も行った。タンブラーは、100円ショップで購入可能なもので、側面にコラージュ作品を挿入するだけで簡単にできた。タンブラーは平面作品とは異なり、「押し」を持ち歩くことができるのが利点であった。Aは、他の車好きの生徒と車の写真を交換したり、お互いの作品を褒め合ったりしていた。

制作終了後事後アンケートを実施し、「楽しい」「まあまあ楽しい」「普通」「いまいち」「楽しくない」の5段階で回答を得た。肯定的評価が90%で、多くの生徒が楽しんで制作できたことから「好み」の効果が認められた。Aのアンケートには「楽しい」「もっとやりたい」という感想や「次はスーオー（車の名前）の写真をたくさん貼りたい」といったリクエストが記入されていた。Aを含む多くの生徒にとって「好み」を用いたことにより、美術のコラージュの授業が動機付けの高い活動となったと考えられる。

「好み」は多様な場面で応用可能であり、適用できる場面があれば生かしていきたい。今後もどの生徒も大切な存在であると心に銘じて授業に臨むこと、Aの登校できているときこそヒントがあると捉えて登校を支えることを心掛けたい。学校生活の中で、生徒が少しでも好きなことや得意なこと、嫌なことや苦手なことにチャレンジできるきっかけづくりができればいいと考えている。そのためにも教育相談の視点をベースにしながら生徒と関われるように自己研鑽に努めたい。

(担当：小川 正人)



【福岡市支部】一支部活動報告

2020年から世界中に猛威を振るったコロナ禍の中、福岡市支部においても、コロナウイルス感染拡大防止の観点から支部総会・研修会の対面での実施の中止・延期を決定しました。2021（令和3）年度の支部総会



理事長 坂井 俊介

は、会員へ紙上提案での報告を行いました。そのような状況下、9月11日（土）に福岡大学人文学部准教授 山本智教先生を講師にお招きし、なんとか支部研修会を実施開催することができました。リモートでの実施という初めての試みでしたが、多くの会員の方に参加していただくことができました。

各会員の皆様にはコロナ禍の中研修研究の機会にも恵まれず、また、学校現場でもこれまでの業務に加え、新たに消毒業務などが増え大きなストレスを感じられておられることと存じます。総会が開催できないばかりか、各研修会までもがリモート開催になることで研修・研鑽の観点からはやる気が削がれてしまう気持ちもが生じることも十分に考えられます。しかしながらこういう情勢の中だからこそ会員の皆様と団結し、万障繰り合わせ、会員相互に連絡・連携を図りながら会員間の資質向上を図って行きたいと考えています。ご理解とご協力のほど宜しくお願いいたします。

〈令和3年度の活動〉

1 総会・役員会等

(1) 総会

○日時 令和3年7月2日（金）

（資料郵送による紙上提案）

○内容 実績報告と活動計画の提案

- ・昨年度活動実績及び会計の報告
- ・今年度活動計画及び予算案
- ・役員案、組織案

(2) 役員会

○日時 令和4年3月14日（月）

- ・今年度の振り返り
- ・次年度に向けて

（会則、組織、役員人事、年間計画など）

○会場 福岡市立福岡中央特別支援学校

2 事業等

(1) 研修

第1回 合同研修会（学校教育相談実践研究会との共催）

○日時 令和3年9月11日（土）

○会場 オンラインによる開催

〈講演〉「構成的グループエンカウンターを活用」

〈講師〉福岡大学人文学部 准教授

山本 智教 先生

〈令和3年度の役員〉

理事長 坂井俊介
副理事長 中山徹一 古賀清隆
理事 永瀬枯緑
顧問 中村順一 手島正和 北原駿光
松村邦裕 福嶋真郷
事務局長 辻野雄大
事務局 馬場慎一 堀澤恵二 堀内昌恵
竹内義則 中野宏一 相浦信介
戸高健 梶栗淳子 大屋哲二
小川康弘 弦本浩顕
田中早月 黒木康代 押川寛郎
藤原京子 野田明美 樋口芳恵
会計監査 今橋美智子 友野裕香
(文責 事務局長 辻野雄大)

★第32回中央研修会報告

2022年1月9日(日)に、日本学校教育相談学会第32回中央研修会をZoomによるオンラインで開催いたしました。新型コロナウイルスの感染がなかなか収束しないことに加えて、感染力が強いと言われていたオミクロン株の流行もあり、対面での開催を見送らざるを得ない状況でした。

今回の研修会で午前の部(9:00~12:00)3コース、午後の部(13:00~16:00)3コースと学校教育相談活動に資する6つのコース別講座を企画しましたところ、延べ350名を超える参加申込がありました。オンライン開催ではありましたが、参加者の多さから教育相談にかかわる方々の関心の高さと研鑽意欲がうかがえました。

コース別研修終了後のアンケートでは、いずれのコースも極めて満足度が高く、自由記述にも「充実した研修であった」という声が多数ありました。

実施いたしましたコース別研修は次のとおりです。

【午前の部】

- Aコース「教育実践を支える4つの理論」
栗原慎二先生(広島大学大学院)
Bコース「保護者対応の危機管理」
嶋崎政男先生(神田外語大学)
Cコース「ネット・ゲーム依存とは」
松崎尊信先生(久里浜医療センター)

【午後の部】

Dコース「教育相談コーディネーターに求められる役割」

栗原慎二先生(広島大学大学院)

Eコース「子供の人権感覚を育てる教育相談」

春日井敏之先生(立命館大学大学院)

Fコース「愛着発達上の課題を抱える子どもたちへの支援」

大橋良枝先生(聖学院大学)

今回の研修会で、オンラインであることから起こる課題が明確になりました。今後、その改善に向けて研修委員会で検討してまいります。

最後に、第32回中央研修会が多くの参加を得て、盛況裡に終わりましたことを感謝申し上げます。今後も、会員の皆様が満足のいく研修をご用意させていただきますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

(文責：研修委員長 向江 幸洋)

★災害被災者支援委員会報告

本委員会が東日本を中心に支援活動を開始してから10年が経過しました。現地視察、現地の会員訪問などを経て、要請のあった学校への校内研修・個別相談、地域単位での研修という形での支援を続けて参りました。

ここ数年はコロナ禍の関係で現地訪問はできていない状況ですが、この10年を振り返り、次世代に引き継ぐ資料づくりを始めたところです。

具体的には、この10年間を振り返りながら、「報告」の形にまとめ、学会誌及びHPに掲載することを考えています。

こういう時代ですから、一堂に介してというわけにはいきませんので、リモート会議形式で、ほぼ毎週1回のペースで支援委員会を実施し、報告文の検討を重ねています。

この作業を通じて、会員の皆さんに、どう表現したら現地の方々のご苦労や悩みなどがわかってもらえるだろうかと、悪戦苦闘している日々です。

例えば、宮城県支部の元理事長の山下克郎先生はじめ、宮城、岩手、福島3県の多くの現地会員の方々のお力を借りて、支援活動を続けることができましたこと、あらためて感謝申し上げます。

また、本学会の会報に、支援の現状をお伝えするスペースを毎号与えていただいていることにも感謝いたします。

(文責：災害被災者支援委員長 砥柄 敬三)

★会長コーナー

今年度は、コロナ禍のもとで、オンラインによる研究大会(兵庫)・夏季ワークショップと中央研修会に、いずれも300名を超える参加申込みがあり、盛会に開催することができました。また、学会誌編集方針の改定によって、投稿論文への支援体制も強化されてきました。関係の皆さん方に感謝申し上げます。

今後、新会員を多く迎えていくためにも、私たちが自身がワクワクするような取り組みを展開し、より深く学び合い、交流できる学会にしていく必要があると考えています。そのために、会長として各委員会への期待や希望を込めて、見解を表明させていただきました。

たとえば、①資格認定委員会としてのニューズレターの発行再開を。②「ポイント制」の導入等、学校カウンセラーの資格取得、更新に関してわかりやすい制度化を。③学校カウンセラーの研修会、実践交流会等の開催を。④「コロナ時代」を踏まえた会員交流会の開催を。⑤学会誌作成委員会として、「論文の書き方講座」(特に現職教員向け)の独自開催を。⑥会報に、「若手の会員」「SCとして活動している会員」等からのメッセージ掲載を。⑦「教育相談コーディネーターのあり方」に関する調査研究等を生かして、「学校教育相談」に関する書籍の企画・出版を、などです。

会長副会長会、役員会、各委員会等で議論を深め、今後の取り組みに生かしていただきますようお願い致します。

(文責：会長 春日井 敏之)



★事務局より

第32回中央研修会も無事に終わることができました。多数の皆様の参加ありがとうございました。

- 今後、中央研修会や夏の大会など学会の活動に関して、会員の皆様にメールで発信する機会を増やしたいと考えています。そのために、メーリングリストの作成をより充実させていきます。まだメールアドレスの登録がすんでいない方は、各支部を通じて、事務局に報告して登録していただきますようお願いいたします。
- 公益法人の申請については、継続して認可待ちの状態が続いています。
- 8月の全国大会・夏季ワークショップは、オンラインやオンデマンドで開催するように計画が進んでいます。

(文責：事務局長 木村 正男)

★編集後記

本会報で、栃木県支部より今夏8月6日・7日開催予定の第34回全国大会(栃木大会)の案内がありました。今年度の兵庫大会に引き続きオンライン開催とのことです。ただし、リアルタイムの開催だけでなくオンデマンド形式も採用されるようで、大会当日に参加できなかった会員も後日、視聴できるメリットがあります。まさにWith コロナの時代に合った研修スタイルではないでしょうか。是非、多くの会員の参加を期待したいと思います。

(文責：広報委員長 山本 健治)

一般社団法人日本学校教育相談学会 会報
第67号
令和4年3月20日発行
発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会
会長 春日井 敏之
編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会
広報委員会 委員長 山本 健治
事務局 〒179-0073
東京都練馬区田柄3-11-28
一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局
電話/FAX：03-3926-7386
H P : <http://www.jascg.info/>